

# 三豊・観音寺支部 活動報告

## 1 研究主題

『生き抜く力を育むための

メディア教育の在り方』

～さまざまなメディアの有効活用を通して～

## 2 はじめに

平成 20 年 1 月の中央教育審議会答申においては、「社会の変化への対応の観点から教科等を横断して改善すべき事項」の一つとして情報教育が挙げられているとともに「効果的・効率的な教育を行うことにより確かな学力を確立するとともに情報活用能力など社会の変化に対応するための子どもの力をはぐくむため、教育の情報化が重要である」などの提言がなされた。これらを踏まえ、新学習指導要領において、情報教育、及び教科指導における ICT 活用について充実が図られた。

こうした考え方に基づき、「情報教育」及び「教科指導における ICT 活用」の充実について、各教科等の指導に当たって、「生徒が情報モラルを身に付ける」とともに「コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切かつ主体的、積極的に活用できるようにするための学習活動を充実する」こと。また、「これらの情報手段に加え視聴覚機器や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図る」とされている。これらの提言に則り、メディアの有効活用を通して学習の効率化や、生徒の学習意欲の向上を目指して、上記の主題を設定した。

## 3 研究計画

(1) 4月22日

部長・理事一斉研修会

場所 三豊市豊中町保健センター

内容 研究組織の決定

年間計画作成

(2) 6月27日

第1回理事・主任研修会

場所 三豊市豊中町保健センター

内容 研究主題と研究内容の検討

(3) 8月21日

夏季実技研修会（香中研）

場所 県社会福祉総合センター

内容 実技研修・高松支部発表

(4) 1月27日

第2回理事・主任研修会

場所 三豊市豊中町保健センター

内容 本年度のまとめと次年度構想

## 4 教科での実践事例

(1) 数学

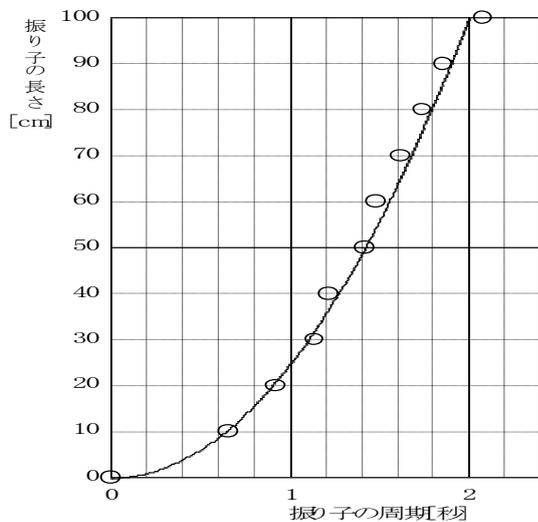
【実践内容】

2乗に比例する関数の学習で、アニメの主人公のブランコの周期から長さを計算する。



- ① アニメの主人公がブランコをしている様子を見て、10往復するのにかかる時間を計る。
- ② アニメの主人公のブランコの周期が8秒だったことを確認する。
- ③ 振り子の長さを変えて、10往復する時間を計り、1往復に要する時間を表にまとめグラフで表す。

長さ[cm]	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
周期[秒]	0	0.65	0.92	1.13	1.22	1.42	1.48	1.62	1.74	1.87	2.07



- ④ 周期をもとに、振り子の長さを計算する。  
周期をx(秒)、ふりこの長さをy(cm)とすると、  

$$y = 2.5 \times x^2$$
 ブランコの周期は8秒だったので、  

$$y = 2.5 \times 8^2$$

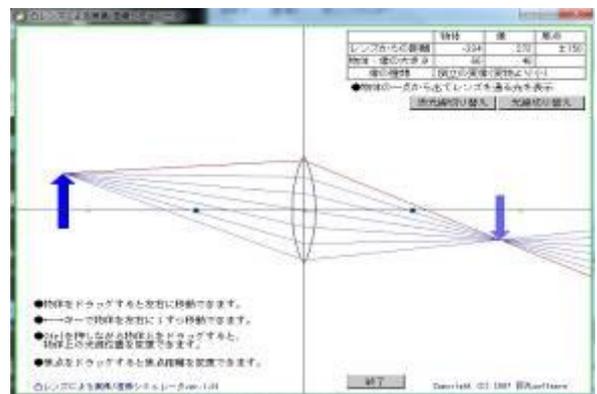
$$= 1600$$
 ブランコの長さは16mであることが分かった。

## (2) 理科

### 【実践内容】

光の学習で実物を使って実験するとともに、シミュレーションソフトを活用し実験の内容を確認する。

- ① レーザポインタの光をレンズにあて、光がどのように屈折しているのか観察し、屈折の様子をノートにまとめる。
- ② シミュレーションソフトを使い、実験と比較し光の動きを確認させ、思考を深めさせる。

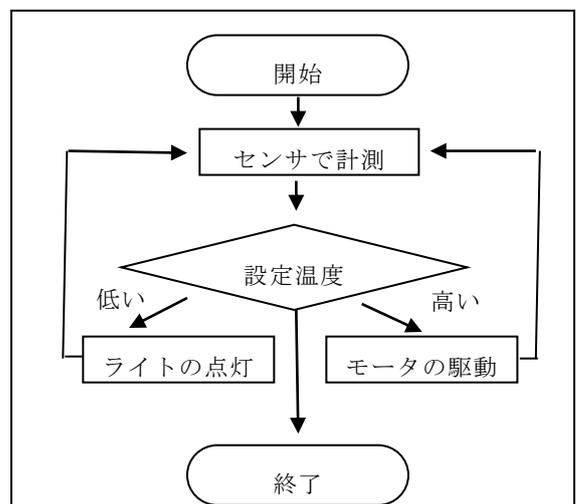


## (3) 技術・家庭

### 【実践内容】

家電製品で使われているコンピュータのはたらしを理解させるため、制御ソフトを用いて計測し機器を制御した。

- ① 家電製品はどのように温度を調整しているのか生活体験をもとに発表させる。
- ② 発表をもとに、動きをフローチャートにまとめ確認する。



- ③ 制御ソフトを使って室温をセンサで計測し、設定温度より高い場合は、プロペラを回転させる。設定温度より低い場合は、豆電球を点灯させる。

(下図、コンピュータの画面と制御する機器)



#### 【実践内容】

木材を使って簡単な製品を製作する授業の導入時に、作業上のポイントになる点を提示して理解を助け、作業上の注意点の周知徹底を図る。

- ① けがき作業を行うときには、どのような点に注意すればよいのだろう。
- ② けがき作業をするときの手順をプロジェクタを用いて説明する。
- ③ 作業上の注意点を全体で確認する。
- ④ 机間指導を行い、作業中に間違っただけの例をもと随時全体で指導行う。



## 5 成果と課題

授業に効果的にメディア教材を取り入れることによって、生徒の興味関心が高まり、学習効果が上がった。また、道徳や学級活動（特別活動）で使った視覚にうったえる教材は、生徒の記憶に深く残り、感想にも深まりがでていた。今後の教員側の課題として、①メディア機器の操作の習熟、②生徒を引きつけるメディア教材の精選・選択、③短時間で準備できるメディア機器の整備があげられる。校内で教員の実技研修会を開き、操作技術とメディア教材に対する知識を習得しあい、活用を図りながら慣れていくことが大切である。

また、情報モラルの未熟さによる不用意な個人情報発信や、他者に対する誹謗中傷などの書き込みが大きな社会問題となってきた。インターネット上のふるまいが、当事者の将来にまで影響を及ぼしかねない重大な事態を引き起こす可能性を各教科や道徳などで伝え、啓発活動を行う必要がある。